

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校 北九州自動車大学校	昭和51年6月8日	籠谷 正則	〒802-0814 北九州市小倉南区蟻田若園1丁目2番24号 (電話) 093-962-6673																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人ぜんりょう学園	昭和34年4月6日	中村 仁	〒802-0814 北九州市小倉南区蟻田若園1丁目2番24号 (電話) 093-962-6673																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	一級自動車整備科	—	平成23年文部科学省告示第170号																			
学科の目的	二級自動車整備士の知識に加え、ハイブリッド自動車や電気自動車などの低燃費環境対応車、運転支援システムを搭載した先進安全自動車などの新技術、高度診断技術、接客対応にも対応した一級小型自動車整備士を養成する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
4年	昼間	3716.4時間	1238.0時間		2464.0時間		14.4時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
200人	90人	0人	5人	9人	14人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験による点数と平常点を合算し100点を満点とする整数によって表す																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:7月26日～8月30日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月25日～3月31日		卒業・進級条件	当該科目のすべての授業に出席し、学期末の評点が1.2年次60点以上、3.4年次70点以上であるとき。 ただし、3年次への進級は2年次修了後、国家試験で二級ガソリン及び二級ジーゼルの両方を取得すること。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 無断欠席が発生した場合、直ちに学生本人及び保護者との連絡を密にすることで欠席理由及びその解決策を講じる。		課外活動	■課外活動の種類 校友会、学園祭実行委員会 ■サークル活動: 無																			
就職等の状況	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 自動車販売会社、総合建設機械販売会社、軽自動車検査協会職員 ■就職指導内容 進路担当教員と担任教員が学生一人ひとりにあった進路指導を入学直後から実施。 ■卒業者数 : 13人 ■就職希望者数 : 13人 ■就職者数 : 13人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 なし (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>13名</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>25名</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>25名</td> <td>25名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	13名	13名	二級ガソリン自動車整備士	②	25名	25名	二級ジーゼル自動車整備士	②	25名	25名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
一級小型自動車整備士	②	13名	13名																				
二級ガソリン自動車整備士	②	25名	25名																				
二級ジーゼル自動車整備士	②	25名	25名																				
中途退学の現状	■中途退学者数 2名 令和2年4月1日時点において 令和3年3月31日時点において ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更		■中退率 2.7% 在学者 73名 在学者 68名	■転科者(流出) 3名 (令和2年4月1日入学者を含む) (令和3年3月31日卒業生を含む)																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度…学業・人物ともに優秀な学生を支援する制度で、特待生試験の結果が優秀であった合格者に適用 グループ校奨学金制度…受験生本人、もしくは2親等以内の親族が本校・グループ校の卒業生もしくは在学者である場合に適用 女子奨学金制度…将来、自動車整備士として活躍する女子入学生を支援する制度で、女子入学者全員に適用。 ■専門実践教育訓練給付: 対象外																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	https://kamc.ac.jp																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムに関して、自動車整備士として必要な実践的かつ専門的な能力を育成するべく構成されるよう、その内容を検討し、職業教育水準の向上を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会で検討された内容は、開催された会議ごとに意見を取りまとめた上、学内で共有し、カリキュラムの改善に活用することとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
籠谷 正則	専門学校 北九州自動車大学校 校長	2021.4.1～2022.3.31	
本田 晴彦	専門学校 北九州自動車大学校 運営部長	2021.4.1～2022.3.31	
中村 元	専門学校 北九州自動車大学校 事務局長	2021.4.1～2022.3.31	
木下 伸二	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会	2021.4.1～2022.3.31	①
宮崎 雅史	ネットヨタ北九州株式会社 総務課係長	2021.4.1～2022.3.31	③
和泉 孝司	ネットヨタ北九州株式会社 技術課係長	2021.4.1～2022.3.31	③
村岡 秀紀	北九州ダイハツ販売株式会社 総務部 課長	2021.4.1～2022.3.31	③
福村 貞幸	北九州ダイハツ販売株式会社	2021.4.1～2022.3.31	③
久保田 俊也	株式会社オートブラザウチ	2021.4.1～2022.3.31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時)

第1回 令和2年12月10日(木) 10:00～11:00

第2回 令和3年3月25日(木) 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(委員からのご意見)職場の雰囲気学ぶ機会をより与えるべき。

(活用状況)インターンシップで学生を受け入れていただけるよう就職先企業への呼びかけを行ったところ、前向きに検討いただける企業もあり、ホームルーム等で学生へインターンシップの意義を伝えるとともに積極的に参加するよう呼びかけを行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の要請を十分に生かしつつ本校専門課程の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習の授業を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習、演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記。

企業等と協定を結び、実習・演習等を実施。授業内容や方法及び学修成果の評価について企業等と連携を行う。学修成果の評価については、学生が修得した技能を含む実践的かつ専門的な能力について評価を行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載

科目名	科目概要	連携企業等
社会教養学	就職活動に向けた自動車業界の知識の習得・サービス業への理解・一般教養の習得・ビジネスマナーの習得・就職試験対策 (連携内容)現場の雰囲気を感じるとともに、エンジニアの仕事内容や社会人としての心構え・身だしなみ等を修得する。	ネットヨタ北九州(株) いすゞ自動車九州(株) (株)スズキ自販福岡
社会教養学 各構造学 新技術	自動車を構成する各部品の構造・機能、及び、それらの装置の作動について理解する。 (連携内容)様々な車両や新技術についての知識を修得する。	いすゞ自動車九州(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教育に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等が計画的に実施する教育研修、実技研修、最新機器を用いた点検・整備方法などの研修を教員に受講させることにより、学生への教育的指導効果を向上させることを目的として研修規程を定め、自動車分野における実務について、自動車技術の進展に即した教育内容や指導方法を本校専門課程において実践できるよう、研修への積極的な参加を促す。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

② 指導力の修得・向上のための研修等

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

② 指導力の修得・向上のための研修等

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月文部科学省策定)」を踏まえ、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、学校自らが評価を行う「自己評価」はもとより、企業等の役員又は職員が学校関係者として評価に参画し、自己評価の結果を評価することを基本として行う「学校関係者評価」の実施及び公表を行うとともに、その評価結果を踏まえた教育活動その他の学校運営の改善に取り組む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像／職業教育の特色／将来構想／周知／業界のニーズ把握
(2) 学校運営	運営方針／事業計画／規則／規程整備／意思決定システム／コンプライアンス／情報公開 他
(3) 教育活動	教育編成・実施方針／時間の確保／カリキュラム編成／工夫・開発／産学連携 他
(4) 学修成果	就職率／資格取得率／退学率／社会的活躍・評価把握／キャリア形成効果把握・改善
(5) 学生支援	進路支援／学生相談／経済支援／健康管理／課外活動支援／生活環境支援／保護者連携 他
(6) 教育環境	施設・設備／学内外実習施設・インターンシップ・海外研修／防災体制整備
(7) 学生の受入れ募集	募集活動／教育成果の正確な伝達／学納金の妥当性
(8) 財務	中長期計画／予算・収支計画／会計監査／財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準遵守・適正運営／個人情報保護対策／自己評価実施・問題点改善／自己点検結果公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献／ボランティア活動／公開講座・教育訓練
(11) 国際交流	留学生受入・派遣／留学生在籍管理／留学生学修・生活指導／評価取組

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(委員からのご意見) 色々な研修に教員が参加したことによるプラス要因は、見える化になっているか？

(活用状況) 講習に参加した際の資料等は必ず回覧し、全教員が目を通すようにしている。また、技術等に係る改善事項は参加者が全教員に報告し、情報共有している。

(委員からのご意見) 新型コロナウイルスによる求職減少の可能性があり、就活は今までと違った対応が必要になると思う。

(活用状況) 懸念されていた新型コロナウイルスによる求人減少はなく、自動車整備士に対する企業側の求人ニーズは依然として大きく、学校側からは特に求人依頼を行う必要はなかった。ただし、学内企業説明会は、コロナ感染予防対策を徹底することにより実施した。

(委員からのご意見) 課外活動再開への具体的な取組はあるのか。学生自ら休止している活動を学校側が始めたい、というのは無理があると思う。

(活用状況) 活動再開への具体的な取組はないが、学生が自主的に課外活動を提案してきた場合、場所(工房)と予算について積極的に支援していきたい。

(委員からのご意見) ハイブリッド車(HV、車)特有の実習について、何か実施しているのか。

(活用状況) 昨年度末に導入したトヨタプリウスを二級自動車整備科のシャシ実習場に3台、同科のエンジン実習場に3台、一級自動車整備科の実習場に4台を配備し、HV特有のバッテリー脱着作業などの実習を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部教育課課長	2021.4.1～2022.3.31	企業等委員
金丸 孝弘	株式会社ジャパン三陽	2021.4.1～2022.3.31	企業等委員
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 小倉営業所所属	2021.4.1～2022.3.31	企業等委員
宮本 達也	宮本商事	2021.4.1～2022.3.31	企業等委員
穂枝 浩志	同窓会役員	2021.4.1～2022.3.31	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL <https://kamc.ac.jp/information>

公表時期: 令和3年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者が本校専門課程全般について理解を深めるとともに、当該企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、本校専門課程の教育活動や支援体制、財務状況等、学校運営状況に関する情報をホームページ上に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要／教育方針
(2)各学科等の教育	学科・コース概要／取得可能資格
(3)教職員	教員名簿(職名、取得資格、主な担当科目)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	進路状況・実績／就職先企業／バックアップ体制
(5)様々な教育活動・教育環境	特色／授業風景／施設
(6)学生の生活支援	キャンパスライフ
(7)学生納付金・修学支援	入学金／年間学費／諸経費／支払時期／公的奨学金制度／独自奨学金制度
(8)学校の財務	資金収支計算書／事業活動収支計算書／貸借対照表／財産目録
(9)学校評価	自己点検評価結果／学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生受入
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://kamc.ac.jp/information>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会教養学	就職活動に向けた自動車業界の知識の習得・サービス業への理解・一般教養の習得 ビジネスマナーの習得・就職試験対策	1前	24		○	△		○		○		○
○			体育・競技	競技やレクリエーションを通じて、競技技術及び体力の向上を目指す。また、学生及び教員間の親睦を深める。	1 2 通通	14.4				○		○	○	○	
○			ガソリン・エンジン構造	ガソリンエンジンを構成する各装置・部品の構造・機能、及び、それらの装置の作動について講義する。	1 2 通前	72		○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン構造	ディーゼルエンジンの構造・機能の理解 エンジンの構成部品・部品名称・役割・構造・作動について講義する。	1 通	48		○			○		○		
○			シャシ構造	動力伝達装置、アクスル及びサスペンションを構成する各部品の構造・機能、及び、それらの装置の作動について講義する。	1 2 通前	72		○			○		○		
○			電装構造	自動車に装着されている電装品の構造・機能及びそれらの装置の作動について講義する。	1 通	48		○			○		○		
○			自動車新技術	自動車に関わる新技術を構成する各部品の構造・機能、及びそれらの装置の作動や整備作業について講義する。	2 後	24		○			○		○		
○			電子制御装置	半導体の特性・用途、回路の電気の流れ、ECU、センサ、アクチュエータについて講義する。	2 後	24		○			○		○		
○			自動車の力学・数学	数学の基本的な内容の復習を含め、整備等を行う上で必要となる数学的要素について講義する。	1 3 後後	50		○			○		○		
○			電気・電子理論	導体、半導体及び不導体の性質について解説し、半導体素子(ダイオードやトランジスタ等)の構造とその動作について講義する。	1 3 前前	50		○			○		○		
○			自動車材料 燃料・潤滑油	自動車燃料・潤滑油の性質及び自動車材料の性質・用途について講義する。	1 3 前前	50		○			○		○		
○			自動車基礎	機械製図の基礎知識について解説し、電気回路及びオームの法則等について講義する。	1 前	24		○			○		○		
○			自動車の構造・性能	自動車の振動・騒音に関し自動車メーカーは種々の振動・騒音防止対策を施しており、その対策内容について講義する。	3 後	26		○			○			○	

(工業専門課程 一級自動車整備科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			図面(CAD)	フリーウェア(無償のソフト)でありながら機能性・実用性に優れ、多くの技術者に愛用されているJw-cadの操作を学び、図面作成の技術を身につけさせる。	3前	26		○			○	○			
○			ガソリン・エンジン整備	ガソリンエンジンを構成する各装置・部品の点検・修正及び分解・組み付けの要点について講義する。	1 2後後	48		○			○	○			
○			ジーゼル・エンジン整備	ジーゼルエンジンの本体及び各装置の構造・機能の復習 各装置の整備方法について講義する。	2前	24		○			○	○			
○			シャシ整備	シャシを構成する各装置・部品等の保守・点検・整備について講義する。	1 3後通	68		○			○	○			
○			電装整備	各電気装置の整備、サーキットテスタの活用方法(電圧分布、点検順序の理解)、配線図の読み取り、CAN通信の概要を講義する。	2 3前通	68		○			○	○			
○			故障原因探求	故障探求を行う上で必要となる知識・技術、及びその方法についての講義を実施する。	2 3後後	66		○			○	○			
○			エンジン整備	ガソリン・エンジン、ジーゼル・エンジンに使用されている各センサ、アクチュエータ、ECUの構造・機能、電気回路の構成と点検、センサ、アクチュエータの信号形態、信号の異常検知の仕組み、信号電圧点検方法、ECUの制御を理解することを目的とする。	1 2 3後前通	92		○			○	○			
○			シャシ電装整備	シャシ電装を構成する各部品の構造・機能、及び、それらの装置の作動及び整備作業について講義する。	2前	24		○			○	○			
○			総合診断	自動車整備での顧客対応の基本である「受付」、「問診」、「診断」、「整備内容説明」等について講義する。	3後	26		○			○	○			
○			環境保全安全管理	地球規模の環境保全と自動車にかかわる環境保全(例えば地球温暖化等)と、災害防止等の安全管理について講義する。	3前	26		○			○	○			
○			自動車総合整備	自動車を構成する各装置・部品の構造・機能及びそれらの装置の作動について、また、自動車整備に必要な関連法令についても幅広く講義する。	4通	52		○			○	○			
○			ビジネスマナー	組織人として業務遂行に欠かせないビジネスマナーやルール、一般常識、仕事の基本等を修得し、傾聴力、柔軟性、規律性、状況把握力に優れた人材を育成するための講義を行う。	3前	26		○			○	○			
○			経営学	経営学の基礎を学ぶことにより、組織人として、企業活動の全体像を意識し考え行動できる人材を育成するための講義を行う。	4前	14		○			○	○			

(工業専門課程 一級自動車整備科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			マーケティング	企業及び他の組織がグローバルな視点に立ち、顧客との相互理解を得ながら、公正な競争を通じて行う市場創造のための総合的活動の基礎を学び、自動車業界におけるマーケティング及び自動車整備業界におけるサービマーケティングについて考える。	4後	26	○			○		○			
○			パワーエレクトロニクス	半導体を用いて大電力を制御するパワーエレクトロニクスについて講義する。	4前	26	○			○		○			
○			モータ制御	ハイブリッド自動車や電気自動車等で使用されるモータの動作方法について講義する。	4後	26	○			○		○			
○			機器の構造・取扱い	基礎自動車整備作業の習得。自動車整備に使用する工具、測定機器等の種類、取り扱い方法、注意点の把握。	1前	24	○			○		○			
○			整備作業機器・測定機器	整備作業を確実に行為には、様々な整備機器・測定機器が必要であり、それらの整備機器・測定機器の正確な取り扱いや点検方法を講義する。	3前	14	○			○		○			
○			自動車検査・機器	自動車の車検整備、検査を行う上で重要な検査機器の構造・取扱い、並びに関係法令について講義する。	2 3前後	36	○			○		○			
○			自動車法規・検査	自動車整備士に必要な道路運送車両法の定義、自動車の定義、保安基準について、また定期点検及び整備事業関連法令の重要性やモラルの理解について講義する。	2	24	○			○		○			
○			自動車法規	自動車に対する法規制の概要を理解し、自動車整備士に必要な「道路運送車両法」、「道路運送車両の保安基準」、「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」等を学習する。	4後	26	○			○		○			
○			手仕上げ工作機械工作	電動式、エア式、油圧式等の小型の各種作業用機器及び工作機械並びに溶接機等を安全に使用できるようになるための実習を行う。	1 3前通	26.6				○	○	○			
○			基本計測	基本的な測定機器、工具等の正しい使用方法を習得する。	1前	45.6				○	○	○			
○			応用計測	交流の電源に対して測定する場合は、抵抗だけでなくインピーダンスの概念も必要になってくる。そこで、インピーダンスの測定をすることで交流回路におけるインピーダンスの理解を深める実習を実施する。	4通	15.2	△			○	○	○			
○			自動車整備作業	エンジン、シャシ、電装、電子制御等、各々の部品名称等の基礎知識から構造、故障原因の探求まで実習を通じて技術を習得する。	1 2 3通通通	1554.4				○	○	○		○	
○			自動車検査	自動車検査用機械機器の構造、取り扱い、保守管理方法について実習する。	2 3後後	68.4				○	○	○		○	

(工業専門課程 一級自動車整備科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			体験実習	自動車分解整備事業の認証を受けた事業場におけるOJTを通じて、サービス役務(定期点検、一般整備、分解整備及び高度整備、各種機器取扱並びに顧客対応等)の理解と基礎的業務遂行能力の向上を目指す。	4前	200				○	○	○	○		○
○			評価実習	反復訓練を通じて、自動車分解整備事業の認証を受けた事業場におけるサービス役務(定期点検、一般整備、分解整備及び高度整備、各種機器取扱並びに顧客対応等)に順応することができる基礎的な技能の習得及び安全教育並びにサービス役務全般に渡り指導を実施する。	4通	550				○	○		○		
合計				41科目		3716.40	単位時間(単位)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
当該科目のすべての授業に出席し、学期末の評点が1,2年次60点以上、3,4年次70点以上であること。ただし、3年次への進級は2年次修了後、国家試験で二級ガソリン及び二級ジーゼルの両方を取得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。